

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表予定:令和5年3月1日

事業所名 アンシャンテ2放課後等デイサービス

(指導員7名分)

※“はい”60%以下の項目に対して改善内容を記載

		チェック項目	はい	どちらとも えない	いいえ	改善目標・工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	57%	43%	0%		中高生対象ということで、基準値(1名3.3㎡)では、狭さを実感する結果となりました。現在、外出活動(畑、フットサル活動等)を取り入れて分散し、事業所内の人数を少なくし、解消に向けて取り組んでいます
	2	職員の配置数は適切である	29%	71%	0%	適切でない日があると思う。 職員数が足りない日がある。	職員ミーティングにて、選択制のプログラムに伴い、分散し人手不足が生じているという結果が出たので、選択制のプログラムを一部変更し、改善に繋げてまいります
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	57%	29%	14%	アクティブスペース、トイレの段差	防音工事後、アクティブスペースに段差が出来た トイレ取り付け時にやむを得ない段差が出来た為、段差解消方法が現時点では見つかっていません
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	43%	43%	14%		現在、モニタリング時にパートさんを含めて、話し合いを行っております。活発な意見交換が行えるように工夫してまいります
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	0%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43%	43%	14%		前年度に実習生等の第三者の方達より評価を頂き、記録に残し、サービス向上・改善につなげると目標を設定しましたが、コロナの影響で実習性等の受け入れが出来なかった為、目標未達成となります
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	71%	29%	0%		
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	86%	14%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	71%	29%	0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	71%	29%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	71%	29%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	71%	29%	0%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	86%	14%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%	14%	0%		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%	0%		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86%	14%	0%		

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	14%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	57%	43%	0%		職員ミーティングにて紙面での確認が行えるようにします
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	14%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	71%	29%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	43%	57%	0%		現状医療的ケアの必要な児童が1名おり、同性介助に伴い男性職員が対応しています。女性職員への周知が不十分であるので、今回の結果を元に整えてまいります
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	43%	57%	0%		当施設は小学校高学年の児童を対象としているため、実態にそぐわない点があります。小学校、中学校とは親御さんを介して、積極的な担当者会議の設定を行っています
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	86%	14%	0%		
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	57%	0%	わからない	前年度に引き続き、コロナの影響で専門機関との連携が不十分な状況となります。解消に向けて取り組みます
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	29%	14%	57%		フットサル事業を行う事で、地域交流の機会を確保できるように取り組む予定となります
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	57%	43%	0%	わからない	前年度に引き続き、コロナの影響で協議会との連携が不十分な状況となります。解消に向けて取り組みます
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	86%	14%	0%		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	29%	57%	14%	わからない	適宜、面談等を介して現場での療育方法を個別で報告し、児童の個性に応じた対応を伝えていますが、職員全体に現状を周知出来ていないので、職員ミーティングを介して伝えてまいります
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	14%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86%	14%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	71%	29%	0%		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	86%	14%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	86%	14%	0%		
	35	個人情報に十分注意している	86%	14%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	14%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	43%	29%	29%		来年度よりフットサル事業を行うことで地域との交流機会が増える様努めます
非	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	86%	14%	0%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	86%	14%	0%		

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	71%	29%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	71%	29%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	86%	14%	0%		